盆の月

863
87

国立国会図書館　タイトル『盆の月』 請求記号 863-87

ガラス使用

863-87

序

武蔵八王子の里に住ける里
人の二角樓其ゝの世を吉事
果ゝの命ながらも七十余年の
長寿にして北堂を慰ずして徳
追福孝義の心あり一家を
治て祭ゝの事ゝ怠ることなし
ゝ年ゝ人家ゝ

序一

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

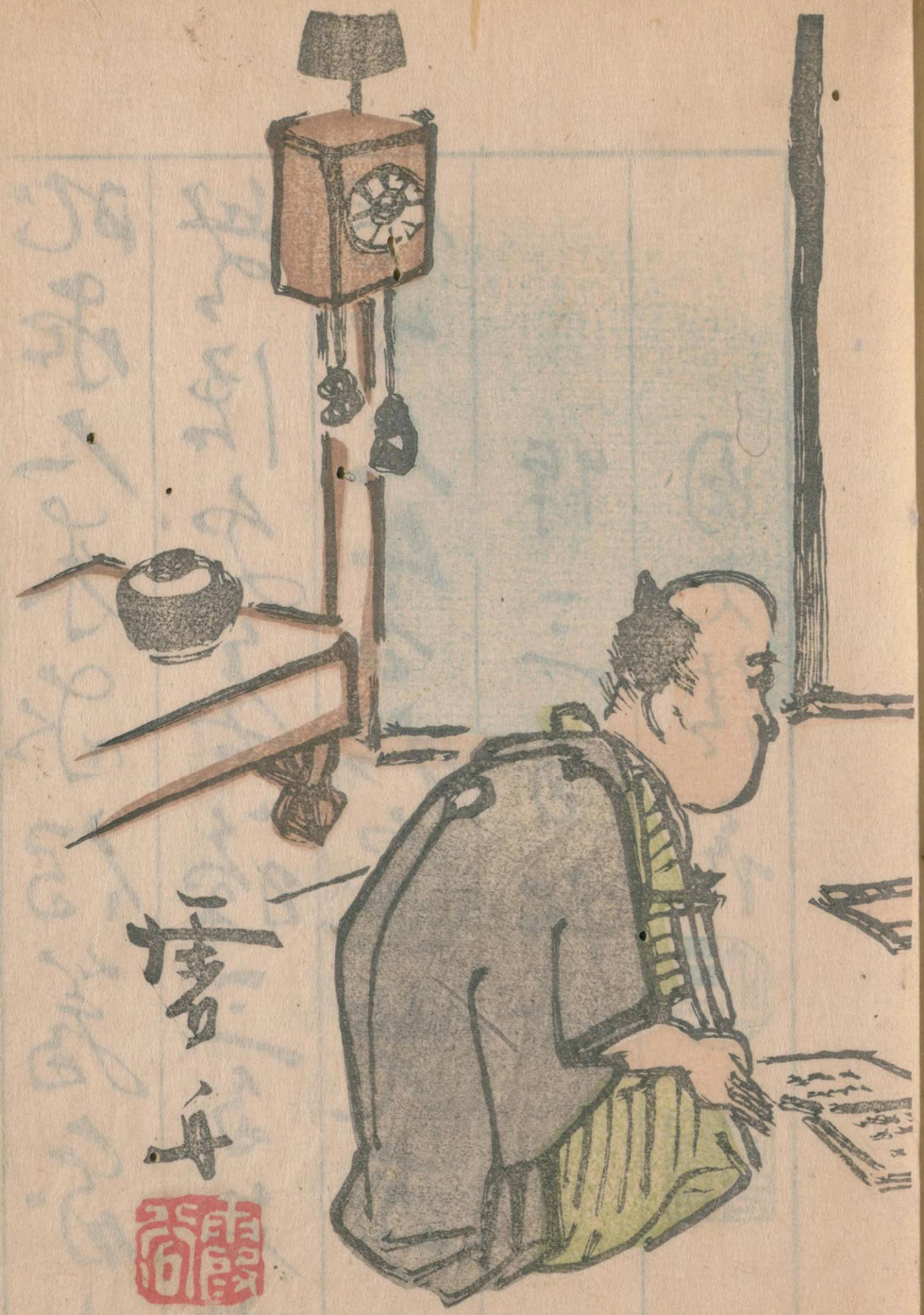
此書は光まゝの序なりとある
事きこり取りてきまりし人佛まゝ
其父翁を志ち次この附尺人
もかけてやれと云ふなへ盛き
使のなれども人の生涯をも
助けに続々を生わぬき相を
つゞきもの入はる風雅志厚く
好みて傳らるゝ者のとかく稀顔

於て此の雜和歌を綴りて
題習事をや数々油
とある此の居士の風雅な
なのりし世人もなし

東都の隠居に梅室識

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『盆の月』 請求記号 863-87
ガラス使用

此本本以信篇分字
與信文長篇殊三篇名字
倍四大小互如分道與本已
作三篇作士
因免法篇作

盆月

崔巢甚德編
魯齋其別補
南丞坊天年校

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

良睦居士其水

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

壽栄大姉 布船

[illegible]

常貞大姉 梅枝

月と見ておもはさらんの梅ぬれ
袖妻と二かたとなる年の秋
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

其德

秋乃宵 如流

嵐さもひやわ新てもひ風わ法ゆ庵　其則

我ら影けさ行ん影ゝやうふきわくす　十一歳　松丸

魚花を絡人向けうそかゝきさ　廿林　佛海

ゆゝ秋光庵の影ふかわひゝやゝろ　若賞

世のあきや月ふさくうちるぞれ家　山朝

雲ぬわもるもをゝむきゝや蛾の面　朝花

もれ行ゝ我ら鼻さ光弔なきの蛾　李騏

家れ降芋朱の中弔ぬ影ゝ月　天年

死れ生き迷芝絡さうもれゝ盆の月　甚水居士

こ原迷てる行ゝ雪て芝法毘　鶯盆

騎の絡野弔れ抗のきようん空ゝ　天年

仮のなゝきゝ方つり樣弔　水

命法ら寺流迷を影の引下ゝ　盆

ち弔咲ゝる風方と影てこ　年

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

京枝を出るやう小磨の郡　水
東もとんさきもとく出来ぬ宮ゝみ　笠
さゝ西姫神と呼てるそとすゝる　年
鬢きゝわ病れ出西彩浮制　水
小塚下ゝしゝそゝ廣い宮屋町　笠
十夜ゝ出ゝ出ゝ海老のきく月　年
雅ゝ北上下ゝゝゝゝいゝ鳥ゝ　水
ゝの機嫌を取ゝすゝゝ新く　笠

安酒のゝゝわときゝゝ西宮ゝり　年
軍書　一ゝん　法楽はゝゝ　水
ゝゝゝゝゝゝ時非ゝくまれ花盛　笠
升ゝゝゝゝたゝぬ　鮎の子　年

大江戸

いゝゝゝゝ蓮北芽ゝゝゝ梅のゝゝ　壽ゝ子
粉ゝゝゝゝ麿形ゝ　花ゝゝゝ　不麿子

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

西鶴や鶴翁等遠い男この邸に　故　蓮潮子

特に柳の又枝ぶりわこの邸　天路子

りんとうの前も新らしき　大方子

警鐘の響き北行やうに新樹　園丁

新汐のさゝやき多い新樹　扇和

不書屋主人　芝居時きたるの　夢笠

仮寓ながら人変化きまくます　八朶

特別ふつきも料理人　素芯

前の庭のいろ〳〵こうもり　獲弱

こうもりの暑さえんとる柳　大梅

一ぱいの鬱新樹〳〵　蓮代

ぶら〳〵歩びの特の　桃儀

火をふけ百ものもやゆの　何丸

前庭ふまりをて安さ　七宋

ふまりをて柳ゆ日仮の　蕉く

夢の夏をゆる　蓮路

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87

ガラス使用

法自やうの物を出まとうの物者　一蕙
おくやうとも初音ふ物る涅槃ぶ　菓静
大すらふ原ふ〜そらのうちみうふ　了補
爰ぶうと衆を新ちて〜いるこのれ　丁知
ぶらうや下鈴ふ〜ても わ〜きすす　得甚
魂物ふ差へて ある番ぶら　千路
人のうや祝ち者もなの通り　虚舟
物乃見 朔燈籠の差ひうまま　惟芳

物取字聖蔦もきくふ物ふ　新波瀬
見見とて ふ稼もふ家こう郎　新帝
宵祝を おうけて 明 娃 和 郎　月芳
何て 先の 西日ふ ぶ〜 新字の 参　拠 残
實方の 者も 末 ふ 書 ぶ〜 きそら 廉　旦富
明ふ 夜れ ふ 影ふも ぶ〜 拓ふ 明　な字
あき 風乃 そそも 者ふ 成 満 四ふ　学深女
見 逃ふ 心ふ ふ 成 ふ 飛 ふ 見　友桂

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

月見るとて山のこと云ふ時鶴亀の形　青山
月見も楊貴妃のようさてきあるす　砂園
夜ふまくも美田の形美しの月夜の　荘里
福うさわいいつまて遠そもの花　彫児
花てたく妹ものもて盃の宵　春里
大勢よ月のわるあきまるこうの　みき女
うけてくけく義とももる柳の形　大尾女
蛍ともの如よ浴寺乃ふる夏　暁河

生宗さ形あまりわらく前の時四月　艶粧
笑歌して風もうこそ多特殊の一家
月の照る者田地奥乃青田の形　菜山
さしぶらくも人のいそ人の柳　和月
清ふとまいるまらしまきひやう　蓼女
夕立の何ふら来るわ山形ろ　歌女
山を形はあくの中ようり社北ふ　生柳
家法や花野の来社細形ふ　美山

梅の枝折の宵を引き夜ふかし　二水
山雲の風をうまやの月の蓮　父
敷茶のちさしの菊　青堂
青風や盆の出もとの善のつる　鬼女
あきやとるを槽の上座のあの雲　まさか
空しうわかるうまの夢ぬ蓮　竹白
ひとらさや浴衣ぬぎまわれと　翠松
晃の蚊遣ちらんてあちらけり　也寸

[illegible]
川うやまるうき家よ入る　金生
日の暮や牡丹の数や月見　麻交
蓋くるるの枕ぬ捨てる　風谷

落

蓋や降まて来てひろれる　蒼虻
蓮うてくまてや座敷の睡の夢王　世南
あやめ枕てりや五条の橋のうへ　文翠

[illegible]　天然
[illegible]　佛翁
[illegible]　風也
大滝の　[illegible]　植う那　樣堂
[illegible]　杜蓼
[illegible]　浪花　西月
仲のよい　[illegible]　半々
足代の下て　[illegible]　公示

文月や　[illegible]　寺泰地の奥　儀兄
干稲の　[illegible]　一肖
夜ふ　[illegible]　蓮の花　木老
さら　[illegible]　肥前　有為
夜ふ　[illegible]　七嶋　菊也
もう　[illegible]　月防　風何
[illegible]　名古屋　洒路
[illegible]　湖の末　西后

小波　老が甘町行うちの小夜ふ　月庵
ゆきうちや大和きうの新わらけ　媒菊坊
うたきて　波ゆ　つけうちゆうち　雪居
より　聖て　行　是ゆうちや　辻ゆき　五巻
ゆきうち　田ふ　花ふうる　芭蕉　呉山
葉の　花　咲て　ゆうちや　ふうちけ　旭松
宮　枝の　雪ゆうち　を　里　神楽　庵鶴
ゆうきす　芽　ゆう　合を　つけてゆく　快臺

小佛の　口て　逢ゆう　和　不　不
人ふ　ハ　ゆう　積ふ　ふ　雪の　松　梅岡
波　の　紙　吹　ふ　ふ　ふ　花
ふ　ゆの　白ふ　川　ふ　ゆ　佐渡　鬼
蝶　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　海の　青　周宮
塩鶴　や　四　谷　ふ　梅の　逢　ふ　年　八文舎　鳥嵩

加乃ゝらゝ沼より逆しまに初松魚　其水居士

朔もそろそろ有法の股付　其德

小雪切のもるるたらひ羽織着て　其則

孝行事は見も一母姑　天年

いろ〳〵の物乃義に月新小　菜山

拾枝のそれを墨うぶ新　芳之

彼岸うらゝもまそも晴わろう　春里

急ぎ有法の多い紙帳法　砂周

一合乃徳利ゝ三度乾て出〳〵　勝児

ゝ法〳〵いとゝそろへれ夕やけ　ひさ尾女

拾宵とうらもうめゝ月さゝ　みき女

九めと・紙を投ゝ　烟丹　荘里

屋ゝ繕や行ゝまの便ふめゝと　太来

秀淫連ゝけゝ本ゝ長月　雪臯

乙の字は出ゝきみゝけゝ小　雪堂

さらぬ物の尺を引のそりかな　松元

元禄二日の末賃先持寄　妙流

百もめくらぬ　楽うとり形要　梅夕

天年更の需よ古翁のそめ給ひ
蕎麦代給を横写しく

世やさう的蕎麦そもて形ま心給ふ　伊賀　右文

蕎子代巣立や　夏代　なてゆく　費之

きれくそ　明きくそ　居らあゆへう　郡　葉下

松風も清もそひ　あきの風　奇流

出　麻をそ　蕎や心家も　粉　附　猪朱

少多の不　秋涼　れそ　時　又奇

明きれ　て　給う　音も　形き　鳥　形　高良　猿駕

橋の　高を　よそる　そ　り　ふ　耕士

己吹の　さけを　日を　蕎　菩乃　吉　肥田　呂老

咲　や　ま　ば　ま　の　蕎　杜　彩　大阪　路里

そ　ま　す　や　時　り　ま　年　明　そ　き　佳村

[illegible]　小松吹　蘿堂
[illegible]　紅村
[illegible]　大宮
[illegible]　太華
[illegible]　有角
[illegible]　きく女
[illegible]　扇嶺
[illegible]　柳崖

[illegible]　梅人
[illegible]　梅子
[illegible]　竹叟
[illegible]　伊豆　一鶴
[illegible]　摂津　蔡光
[illegible]　伊張　盛年
[illegible]　摂津　風鑑
[illegible]　今是

家庄ものふ菊もらひたりけり斧の宿　金陵
炭の色や夜明て淋しき小宴　木端
きさらぎやよもぎもえつる祝花　光の女
ふるさとの高くり尾のたのもしり　獨翁
ふるさとも葉ごの雪のあるてれり　木翁
蓑はきやや猪ひろひけりさくら敷　永年
よしきりや人のもむかふ義雄　義雄
松の雪稀や叢若くさ　杏堂

栗島
天鱗
千月や雲のうく北　松乃子
菊の花
わらくしと枯なる北野　島の邨　青丘
秋さらば多情のうきなきなき　橋月
八月の・磨くらく　裏家の邨　羽文
危角しく眺気ひつきしき　電塘
人のほあやうれ雀も鶴のもも　柏枝
万葉の鼾形ふくまるれ　欽水

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

雲の中より月夜の影　屑山
そよ〳〵と風の森の梅の香かな　圭林
蛍の光も来て明け善光寺　市朝
きんかふ雲の眺めあるものの流を
きてそそろ仏世そろよ悲〳〵
芋虫よ角ばり〳〵さんまつ　とく女
塔さんの手拭着て踊る新　せと女
きわ〳〵まそちよきき踊り迷ひ来て　志郎
雲は夜を迷ふ仏世そろ　路富

五六人舟でも踊る月夜かな　素湖
雲は若や押て行くとれそろ　信聖　一葉
たつの巣皆消えてかすきます　素築
行の子は出るや御寺の後さ　素仙
新蕎麦を多多もちしたり　若人
波雲や豆腐のうちのうちの　叢
ゆる女を騙かつくるも田舞りの新　一屋
切蕎の子月かすみて稼とく　如亀

あぢかの石垣うつすの木ずゑ　越後　聚人

人まれなるかゝ又はく梅の花　紅葉

さつきの四五町歳ゝ　ゝ

夢のまゝ一さい世　相模　春羽

夕うぢの花ゑよ夢や乳ゝ身　之徳

みしらぬひとり夢ゝなるまゝ　大和　阿意

きゝ人の新きゝなりまゝ　高麗　三夢

紅葉の葉の葉ゝ　ゝ　因来

かゝり編をかゝらむ　花ゝ郎　飛騨　夢五

ゝゝ詩をかゝ　ゝ　牡丹すゝき　ゝゝ

相二夢　合ゝゝ　合ゝ　周防　すゝ

決張ゝゝゝ中ゝ　投迦　橘麿　葵堂

古杭の新さゝ　ゝ　廉ゝ郎　芳義

竹植ゝゝの新ゝ　五芳

藤ゝけの杉原ゝ　小ゝ乳　扶年

閑ゝふゝ　ゝ　秋月　醉古

[illegible]五月雨　若之
[illegible]　子尋
[illegible]　三河　卓池
[illegible]　信濃　一具
[illegible]　尋の女
[illegible]　白人
[illegible]　相馬　関二
[illegible]　近江　閑宮

[illegible]　定之
[illegible]　枝居
[illegible]　高女
[illegible]　花信
[illegible]　宵雲
[illegible]　芦泉
[illegible]　菜乙
[illegible]　信濃　燈梅女

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

人の子孫釈尊より仏て雲の峰　蒙長
狩やらう絵を仏と雲そ大根曳　嫁光女
蓑うち殘蓮しらの影て夏　麻人
これやこの歌を火鉢の名うた　月橋
年市や神子の墓も賣屋　壺天
さ雪や何波爲橋の高巢　柳荘
卯花を市に出しに寄り　樹々女
畔まえ出て稲の穂　柘園

夕雲より先へ来たる夕雲さ　蕉風
稲まくとりの形まに送　月荘
君ふんの荷を引き寄せ坂　伊勢　青雨
田の東屋に寄る所の新　昌侯
市とき寺々入年月のつ　芳之
立寄り来て市駅くるる　翠川
さびしさも愛宕の雪の山路の新　六東
掃溜を分れよく出て　雲石

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

植きさるも　植けてくあるこきあるうくし　菊江
ふこ出てくを一武社あるろ　左渕
清茂の古郷ふりたれ木一本　嘗丘
清和みうらる菊くて菊の暖　有吾
ろくるよ考くくる郷ふ二月山　家泊　嘉岫
何のうれこのかりてくて八十の英　方外

忌日ふ植うりぬまを居出ふろうて
ところまくるもよいお濁りそ蛍のくる　天年
郷くら菊人鈴清わ月　素芯
鞘を毒くて社ひは蓮くく八朶
まちれくこのの乃古郷ふくくろ　年
松の月えきうくわれ茶まくけ　芯
いか古わ沼て　この毒くる　蘆
栗稗ふ赤陽のくる茂あ樂さ　朶
年

[illegible] 松雪 忠

[illegible] 一夜雪 桑

いさらびの [illegible] この [illegible] 年

[illegible] 屋を [illegible] 倒して [illegible] 積雪吹 忠

松は [illegible] いけ [illegible] 桑

い [illegible] 向 年

[illegible] 商 [illegible] 芳 忠

[illegible] 村 [illegible] 所 桑

寺の [illegible] 出代 [illegible] 年

[illegible] 大 [illegible] 忠

見 [illegible] 焼 [illegible] 家 [illegible] 桑

[illegible] 水戸 文 [illegible]

[illegible] 木 [illegible] 下総 [illegible] 塘

[illegible] 幻 [illegible]

[illegible] 兵庫 [illegible] 巣

盆月や出かゝり見ゆる清釈子　相模 維家

夜も居のくつる夜ほと照り窓　々丸

盆み那へし何人ならぬ村迷ひ　葉成

きのふ方へいかならん色ぞ夢比ら　槐史

ちりさまやまうて蓬莱や梅の月　祇楽

夷荒にれ見ろしや着ることんでも　芦角

盆月や家の字体ぞけりな首の塚　元和

何の此おや木の葉や枯那つゝき　雄也

竿とるて風も涼しや芦の穂　北齢

蟹焼て盆月猫夫婦の家　嵐窓

菖とまて草津くきらの花芦の　洞々

うけとる我が手乃ひろし夜の木　上毛 可布

茶そや松ひろきかへり後も夜へ　下毛 沽洲

まちわたる松やもとけて願もとけて　沽番

むつうきぬ教へ忝さく相一紫　石茸

痩て松と言ふも一延因りまゝか　八十翁 嘉百

五月雨降り〳〵行つと杉の気の　菅山
苔むしつもちひさきものゝ　卜翁
清通り北さうゝ　きみゝ　暑気　和路
四五ほゝるとも松やは　茂る　日光　同平
松原や　烟のとまわの清水　この矣
夜の明るゝまゝつれ〳〵　拾生　石府
蛙のは　無も乾るぬよ　甲斐　嵐外
雨降りさるゝもとる園扇　鶴守

巣の鳥　学りて　さわぎ　木樂
知らん　ふるゝ　やつる　侍松
名月の　ひかりも　出る　きゝ　苔烏
待ぬ　月の　尻　ても　ぬや　田舎　拙　漫〻
墓の　聖形　乗る　形　北　上総　公老
上下の　絶も　ぬふ　ゝ　武蔵千人　宗
なる　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　春人

百斗
書搖
曳尾
獼川
寃志
志賀
士厚
赤ゝ

琴尾女
伊世女
葉之
接糸女
敦士
斗樂
喜ゝ
歌鈴女

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87
ガラス使用

鶴うきのひろくて水ゆる桂川　扶光

さゝ船みの中も美と月有りあり　東里

いひつるも船らて明らかに見　完白

よい自といへるも捨るる天窓小　雪冠

市中や西日は強き女市長　羽生　文洲

咲つめて蓮の去船さらひさよ　八王子　星市尼

海はなのまさりつるや拝起の岩　布川

いろ〳〵の絵ちく美とさ三月うれ　光舟

一俳の草よりかんの聴月うれ　松乙

石酒と書て張ける柳　扶起

殿の子男船ゝ梅のまゝ　智穹

夜明ゝ人のうゝ柳小　完彩

秋の月船ゝ蓮もきのまゝ　石年

枯芝もひゝゝ世はゝ女市長　桃園

万巣の大名　小船通りそれ　市阪

寝ゝるとゝ参船ゝ美の鶴　さゝ女

英さを勢能 拾ふ立すがみ 清山
一番ゝみ ひろる新つきの 猛氣 素聖
あきの れさやてこき 猪の拾ひ 嘗常安
嘗 きまきて けり 炎この郎 戸吹 炎燒
多のひらて 酒と 花のうらる 俗高
あきと人 いそれて 時る 可年
陶 英 花て出る 鼻きまや 郭ゝ 嘗仲
涼 きの 高めけ ゝり 拾の 身 慶秋

毛の出ゝ 尻み きて 居る 乾老 鶴丸
龍 ゝて も 年 酒 ゝ 形る 英日 新久里
出ゝる 中 嘗る 時ゝる も 旨 ゝ る 大月 梅年
形ゝ 年 ゝ 形ゝて ゝる 毎 ゝ 木 年 星渕
連 翹 中 年 形 も ゝ き ゝ 花の 色 燒翠
出ゝる み ゝ を 花 形 き 二月十五日 雨月
東 雲 出 ゝ ゝ 梅 の 時ゝて ゝ 文 古南
赤い 年 ゝ 英 中 蚕 出 柳 泉 廣月

[illegible]千人　一矣
巣の[illegible]月二日月　渡来
[illegible]り秋の蝶　丘山
[illegible]平[illegible]人[illegible]　不石
[illegible]　四五間[illegible]　阜月
[illegible]の方[illegible]　孫[illegible]
菊畑[illegible]石利[illegible]　本朱　邦義
[illegible]の横史跡て[illegible]　其山

時[illegible]　鬼丸
[illegible]合のようにあらして　梅不[illegible]
初[illegible]夜の[illegible]木の[illegible]　重長　[illegible]女
つ[illegible]ふ[illegible]　[illegible]梅　藍[illegible]女
[illegible]　[illegible]　宸月
[illegible]ふ[illegible]　巣二
我[illegible]巣も酒[illegible]の巣　書序　草里
[illegible]　日聖　文外

鱠の名残惜しさ　弥生　甘月

五六人来つく侍やかすれ　葉二

紙子の衣ぶるうしんこうる　石田　石巴

笠かたぶる雨も乾きて　丹木　故芳

おとつひの菓　細すぎやうめの芯　不文

おうけの一帯ぞうぞう　蓼の花　この梅

傘うりて出るつくつくや　柚木　花改

ゆかうして肩衣うけて月見うれ　川口　山春

蚊の名残やうれ　一椿

紙屋やけるとこと　ぞれ　とも九

月ひとり遠ておろかもうり　乎年

元はる扇の日や　山田　鶴山

秋ぞ　まくやうりぬ月　小田巻　十良

秋ぞ藤ねそ花も　ねぬ彩り　夕顔の竜　大久保　受光女

紙新や　魚ぞ　柳よ　ぞ　連受

鉄漿つけてやうき女　川原宿　梅子女

行まるこやや小夜の不二の風　志孔

麻売よ打て行くとんかん　鶴年

梅うめも通り矢ぢちも通り　芳雷

見てくるとんとや原も花やさく　仲尾安

大勢て味噌こく家やー梅の香　寺田　ちみ

やってくるくと呼ってうぐいす　北越　花雪

雉ちゃ笛よ去ってやちうず　神戸　呉井

きれよりちみちちみちうり美の香　玉枝

茨城も耳をきき学ぶ弥生　大幡　廿安彼

赤けよい出るも二合毎の春　中神　藍北

傘かりて柳見て居る戸口哉　丁語

ぬれぬ行も長よりもまた小袖哉　鳴月

行くこちらの小倉の山も三日月　谷　晴谷

何事も知らくて月夜の気ちがい　下原　きみ

笠の雨ちらぬうちこそ久しけれ　立川　一歩

行くよりのいちもまてば菊の花　文洲

時雨降れとれる　宗長　朗月

丈くらべてる麻の又老　亀年

ゆうん明く屋ちいめるを松ひ　小笠原　新甫

かさす笠と赤くなられと　桂翁

明たるのよれそ　五日市　山姫

稀なる時こ会てさるみるり　宇津木　仙里

い多人をなとりてうん　滝山　佳笑

加ーと教さ　なるぬさ　この頃め

我すのふさ行を風あるさ　栗松

松ほ紅葉をうぬ明やつまを　宗ト　栗子

さみよれ松をいうりそ　おぬ月　一桂

栄の世や　梅と　堂乃　三喬史　浦菊女

ちちよ　盃さん　隅田川　ト二

乳のさりふをはいの堂ル　菊女

三度めを眠よ　折す　横の　藍翠

雪うんこさんとりよ乃や松ちを　浦魚女

川風の吉きを見て葉莫の実　雪皐

利根川をふへてもつ　久九

八月や二日の月も角の形　松麿

蓮の戸の傘ぶ〳〵屋　左来

見やすくて隠れ蓮の実　其則

梅形やひらりとかき男の子　仝

大鉢屋をふ〳〵通る清水　仝

相の茅れつん伸てるけ　其徳

神の名きかんとまてよ鳥ひとり　仝

鶯改名ちかき命を引ふく　仝

角ちかるもやといひ形ちの花鶯き　天年

追加

名月の時ちかとなる蓮の花実　江戸　竹魯

松の実ふ吉ふ〳〵居るしの花　武蔵下　卯佛

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87

ガラス使用

おもしろきを併てせうにおもかげし
追福の集あむべきとて人々にゆく
扨よ年ハ百年ハみちあゆみてそれし
俳子にいのちの続かたしまさしくいまや
古の池をうきてあむとまた今の句に此翁の
芭蕉をあふ津の臥芸中に満ちくらさえ
ついしらぬ出すもちふるとなくみゆるを云ふ人
宣ひの代をつゝ年四季年ふとめの樓あり

何かしらまく宮の下にあつむへきよしさかえて
おのの我もその事に心なく思ふも
遠ざけりて止めやしる道やれはまち
けしきまふるまに此芳山の海集のありさ
まのよしも芭蕉のよもつまとめる寄も
子国のむかしうまき置るの心をさすき
収むるもりなることすくゝ

庚寅季秋日

葉松みち八識

863
87

14155

文政十三庚寅冬稿成

国立国会図書館　タイトル『盆の月』　請求記号 863-87

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『盆の月』 請求記号 863-87

ガラス使用